

新春を迎えて



社会福祉法人
鹿児島県社会福祉協議会
会長 布袋 嘉之



明けましておめでとうございませす。

皆様には、すこやかに令和五年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

発生から四年目となるコロナ禍の中、感染防止対策に留意されながら、それぞれの現場で、福祉サービスの提供をはじめとする業務推進に取り組んでおられる全ての福祉関係の皆様方の御尽力に、心から敬意を表します。

コロナ禍だけでなく、急速に進む少子高齢化、経済の変動や物価高、働き手の不足や格差の拡大、また、国際情勢の大きな変化など、近年、我が国社会や世界を取りまく環境は大きく変わりつつあります。

地域社会にあって、これらによる大きな影響を受けるとともに、人と人とのつながりの希薄化や孤立・孤独への対応、生活困窮への支援、福祉を支える人材の確保

など、喫緊の課題が山積しています。

そのような中で、我が国では、社会福祉だけではなく様々な分野で、制度の改革や新しい動きが起こりつつあります。私たちには、取りまく環境の変化や生起する新しい課題へのしなやかな対応が求められています。

新しい年を迎え、県社協では、このような動きをしっかりと踏まえながら、誰一人取り残さない多様性と包摂性のある『ともに生きる豊かな地域社会の実現』に向けて、これからも関係機関・団体の皆様と連携しながら、各般の取り組みを積極的に進めてまいります。

本年も、皆様方の変わらぬ御理解、御支援を賜りますようお願いいたします。

新しい年が、皆様にとって、より良き年となることを心よりお祈りいたします。

あなたのまちのアクティブシニア

第31回シルバー文化作品展 鹿児島県知事賞受賞者紹介

谷口 隆さん(霧島市・82歳)

谷口 隆さんは、令和4年9月に開催された第31回シルバー文化作品展において、栄えある鹿児島県知事賞を受賞されました。

谷口さんは、20年ほど前、62歳で自動車会社を退職されたのを機に、関西から地元の霧島市へUターンされ、それまで、絵を描いたことは全くなかったとのことですが、もともと絵を見るのが好きで、趣味の一環としてやってみようと思いつき、平成19年に霧島市の公民館講座で絵を習い始めたとのこと。

シルバー文化作品展には、その8年後の平成27年に初めて出品し、奨励賞、銀賞、金賞と、出品する度に受賞され、今回の知事賞受賞となりました。

そのほか、霧島市の『きりしま美術大賞展』や曾於市の『吉井淳一記念大賞展』にも積極的に出品され、数々の賞を受賞されています。

「絵を描き始めて15年、今では、絵を觀てもらえることが、励みになる、喜びになるようになった。絵を觀て前向きな気持ちになってもらえることを見聞きすると、非常に嬉しい気持ちになる。」とのこと。

平成29年からは、「絵画ボランティア」として、病院や施設へ作品を展示する活動を行っており、利用者の方に絵を楽しんでいただいています。

「絵は、人に觀てもらえることで生命が吹き込まれる。今後、様々な美術展に応募して、いろいろな人に觀て貰いたい。觀ていると心とむよな絵を描いていきたい。さらには、絵画ボランティア活動も続けていきたい。」との思いを熱く話されました。

受賞作「洋画「森の水鏡」は、令和5年度秋に愛媛県で開催される「ねりんピック美術展」に出品される予定です。



このコーナーではすこやか長寿社会運動を実践され、いきいきと社会参加されている団体・個人を紹介しています。